

事業名 CD	0106010706	小土地改良事業	
細分化した事業名			
事業担当課室 CD	300100	農林課	整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	魅力あふれるまちづくり	
	中項目	環境と調和した農林業の振興	
	小項目	農林業生産基盤の整備	
関連する個別計画等		根拠条例等	土地改良法
関連する事業			

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	農家経営の省力化を図るため、農道、用排水路の改良を実施する
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	農業施設の利用者(受益者)及び地区内住民
これまでの改善経過	老朽化し、危険度の高い農業用施設から順次、改修を行ってきた。
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	〈実施・運営方法〉 ■市 □委託 □補助金 □その他() 各施設の老朽化が進んでいるため、地元からの改修要望が多く危険になっている施設や事業効果の高い箇所から、一般工事・維持工事・7割補助・原材料支給・重機借上げなどを活用し、順次実施する。また、有利な補助事業があれば取入れる。
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	農業用水の安定供給及び、農道の拡幅により、農家の労働力の省力化を図り農業生産の向上と良好な生活環境を提供する。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	85,308	124,704	106,034
財源内訳	国庫支出金	0	18,809	0
	県支出金	10,000	5,000	5,500
	市債	0	0	0
	その他	1,041	27,969	1,059
	一般財源	74,267	72,926	99,475
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.00 1.09	0.00 1.09	0.00 1.09
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	7,531	7,437	7,324
D	総事業費(A+C) (千円)	92,839	132,141	106,799
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	3,567 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	基盤整備箇所全体延長	全整備延長(m)	1,943	2,934	2,722
		道路 (m)	910	1,068	1,255
		水路 (m)	1,033	1,866	1,467
成果指標	1箇所当たりの整備費(千円)	事業費/整備箇所数(千円) (132,142千円/63箇所)	1,641	2,097	1,810
		道路 44,374千円/17箇所	1,931	2,610	2,984
		水路 87,768千円/46箇所	1,477	1,908	1,252
効率指標	1m当たりの整備費(千円)	事業費/整備延長(千円) (132,142千円/2,934m)	44	45	37
		道路 (44,374千円/1,068m)	47	41	45
		水路 (87,768千円/1,866m)	41	47	34

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 地区からの要望を基に、緊急度の高い農道や農業用水路の改良・修繕を行い、農作物への被害を削減し農家経営の省力化及び、農業生産性が向上しているので妥当である。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 緊急性の高い施設の改良修繕ができた成果が上がっているが、各地区に老朽化した施設が多く、地区要望が増大しているため効果が見えにくくなっている。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 各地区において原材料支給、7割補助の要望が増え、農道、水路の軽微な補修等奉仕の活動により、コスト縮減につながっている。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input checked="" type="checkbox"/> 重点化 (コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善 (実施主体や実施の手段を代える) <input checked="" type="checkbox"/> 効率化 (結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化 (事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合 (他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 農地・水・環境保全対策事業や原材料支給等を活用し、水路、農道の軽微な補修及び維持管理を地域住民にお願いすることにより、経費の縮減と施設の延命を図る。	(2) 24年度 各地区の要望を聞きながら引き続き継続する。	(3) 23年度 各地区の要望を聞きながら老朽化した施設の緊急順位をつけ、各地区の事業計画を聞きし、事業実施を図る。
	22年度の改善計画 軽微なものについては地区での活動を促し原材料の支給、7割補助事業を推進しコスト縮減に努める。		
22年度の改善結果 予定していた箇所について工事実施し、地区の期待どおりに達成できた。			
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 農地・水・環境保全対策事業を活用し、地域住民に水路、農道の維持管理をお願いする。			
課長所見	地域からの要望を精査し、緊急性や他事業での対応の可否等を検討したうえで、迅速に対応していく。		